

小規模多機能型居宅介護事業所及び認知症対応型共同生活介護の自己評価票

(網掛け部分は外部評価の調査項目)

福岡県 グループホーム 陽だまり倶楽部

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営主体が調剤薬局であるという特性を活かし、地域密着型としての独自の理念をつくりあげた。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に沿った介護が行えるよう、全スタッフに対し、毎日のミーティングの中で理念を話し合い共有している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	2階出入り口の一番目に付きやすいところに掲示し、ご家族や訪問者に明示している。	○	当ホームの広報誌を年2回発行することを運営推進会議で決定済みにつき、地域に対してはその広報誌に理念を掲載することで理解を図る。
	2. 地域との支え合い			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や外出の際、顔をあわせれば気軽に挨拶をかわしており、ご近所からタオルなどの差し入れを頂くような関係ができてきている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に入会し、回覧板を回していただき、地域行事にも参加している。一昨年から当ホーム主催の行事に地域の方を招いている。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議や当ホーム主催のバザーで介護相談窓口を設置し、地域の方の相談を受ける機会を設けている。	○	民生委員や福祉推進委員との関係を、これまで以上に密にしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果をミーティングで全スタッフに報告。改善に向け意見交換をし、実践につなげる努力をしている。	○	今後は、全スタッフで自己評価に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、評価結果とそれを踏まえ現在取り組んでいる内容について報告した上で、意見を出していただき、サービス向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、密に連絡を取り、お互いに情報交換を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修には積極的に参加している。必要な方には、ご家族の意向を確認した上で適宜説明を行っている。現在制度を利用されている方もいる。	○	勉強会を開く機会を設け、全スタッフが権利擁護に関する知識を深める努力をしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ニュースなどで自宅や施設において虐待が起こっていることは知っているが、高齢者虐待防止法等についての勉強会等は行っていない。	○	勉強会などを実施し、高齢者虐待防止法等についての理解を深めていきたい。
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族が納得するまで、十分に説明を行っている。現在契約に関する苦情等は出ていない。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の小さな意見や不満の声にも耳を傾け、全スタッフで共有し、話し合いの場を設けている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話などで必ず日常の様子を報告している。また、「陽だまり通信」を発行、近況報告も行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に意見を言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。また、玄関にも公的な苦情相談窓口のポスターを掲示し、説明も行っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も現場に入っており、常にスタッフとの意見交換を行っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な対応に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットのスタッフを固定化し、馴染みの関係が築きやすいような配慮をしている。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の雇用に関し、年齢・性別に左右されることはない。また、スタッフの自由な発想を大事にし、実現に向けた取り組みを行なっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人材担当者が人権教育セミナー等に参加し、管理者に教育するという流れをとっている。	○	今後は講師を迎え、全スタッフに対するセミナーを実施する予定である。
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福岡県グループホーム協議会に入会し、多くの研修に参加する機会を設けている。昨年は、スタッフの希望で理学療法士を招き、勉強会も行った。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に入会している為、同業者との交流の機会は多い。1月には、近くのグループホームでの事例研究会にも参加している。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月1回の管理者会議により管理者の意見を積極的に聞いて取り入れ、スタッフの働きやすさにつなげている。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者に業務日報の提出を義務付け、スタッフの努力や取り組みを把握・評価している。		
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の訪問面談により、本人自身と十分に話をし、生活環境等の情報収集を行い、本人に対する理解を深める努力をしている。		
26	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の話をじっくりと聞くことで、家族の求めていることを理解する努力をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のニーズを見極め、最も適したサービスを提供するよう努めている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族には、必ず事前に事業所を見学していただいている。事情により入居を急がれている場合を除き、スタッフが事前訪問も行なっている。		
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お互いに人として尊重し支えあいながら生活し、調理の際等、入居者に教えてもらう場面作りにも努めている。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	こまめに情報交換を行い、家族と同じ思いで本人を支えていく関係作りに努めている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の思いを受け止め、盆・正月などに外出や外泊を促すなどして、よりよい関係作りを支援している。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族の協力を頂きながら、友人・知人との電話や手紙のやり取り・面会の支援を行なっている。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	全スタッフが利用者の関係性を十分に把握し、円滑な係わり合いを持てるよう努めている。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在、そのような事例はない。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、コミュニケーションを取りつつ把握に努め、家族からも情報を得るようにしている。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問面談で聞き取りを行なうとともに、家族に生活歴を把握することの重要性をお話しし、納得の上で提出していただいている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全スタッフが本人の全体像を把握するよう努め、生活のリズムや有する能力を理解する努力をしている。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃より本人や家族から聞き取りを行い、ニーズの把握に努めているが、ケアカンファレンスはスタッフのみで行っているのが現状である。	○	今後、ケアカンファレンスに本人や家族に出席してもらえるよう働きかけていきたい。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間内であっても、状態の変化があれば見直しを行い、現状に即した計画を立てている。		
40	○個別の記録と実戦への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に細かな状態の記録を行い、本人の日頃の様子を全スタッフが理解できるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームのみの運営である。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティアとの協働について、検討している段階である。	○	運営推進会議等を通じ、民生委員の協力のもと手話ダンスや手工芸の教室を開く予定である。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や体調に応じて、訪問理美容サービスを利用してもらっている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、地域包括支援センターとの協働は行なっていない。	○	今後、必要に応じて地域包括支援センターとの協力体制について検討していきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医がおり、月に一度（内服処方2週間に一度）の定期往診を行なっている。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医のアドバイスをもとに、必要に応じて心療内科等の医療機関の受診も行なっている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護スタッフを配置し、またかかりつけ医の看護師とも密に連絡を取り、利用者の健康管理等に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	かかりつけ医に入院設備があり、本人の状態や家族の意向を考慮しながら、早期の退院に向け連携を図っている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴い、事業所が対応しうる最大のケアについて説明を行っている。	○	まず、終末期に向けた対応指針を定めるところから始めていきたい。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化に伴い、かかりつけ医と連携をとりながら、事業所が対応しうる最大のケアを行っている。	○	終末期のケアについての研修や勉強会に積極的に参加しており、今後も続けていきたい。
8	51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現状、入院による退去の実績しかないが、入院の際も医療機関との情報交換や本人の精神面のフォローを十分に行なっている。	
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人のプライドを傷つけないよう、さりげない言葉掛けや対応に努めている。	○	完璧とは言えないので、日々のミーティングの中で、全スタッフがケアを振り返り改善していった。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の理解力に応じて声掛けを工夫している。毎月の外食会や外出の中でメニューを自分で決めるなど、自己決定の場面を作っている。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れの中で、買い物や散歩など一人一人の状態に応じて個別に対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしさを表現できるよう支援している。外出などの行事の際は、普段と違う装いを促し「素敵ですね」等の声掛けを忘れないようにしている。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 重食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや能力に応じて役割分担している。食事もスタッフと一緒に食べ、雰囲気作りも大事にしている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好を理解し、間食の時間とは別に、その日の状態や時間帯に応じて個別の対応もしている。		
58	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、排泄パターンの把握に努めている。今までもオムツから下着への移行に積極的に取り組んできた。	○	時折、他入居者の前でトイレ誘導の声掛けをすることがあり、改善に努めていきたい。
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施。長さや回数については、入居者の希望に沿った対応をしているが、勤務ローテーションの関係で日中に入浴していただいている。	○	時間帯についても、入居者の希望に沿った対応が出来るよう考えていきたい。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活のリズムを整えている。寝付けない方には、お茶を飲み会話をし、安眠を支援している。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や力を全スタッフが把握しており、一人一人に応じ役割分担・気晴らしをしていただいている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の意向もあり、事業所で管理している。本人の希望や力に応じ自己管理されている方もいる。	○	買い物に行っても、スタッフが支払う事が多い為、ご自分で支払っていただく機会を増やしていきたい。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の散歩や買物、また外食会・温泉などの毎月の行事などにより、外に出る機会を多く持つように努めている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の趣味や能力に応じ、個別に対応している。スタッフや家族と美術館や自宅訪問を実施している。	○	ご家族の協力をいただきながら、個別に対応する機会をもっと増やしていければと考えている。
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	管理室の電話を使われる場合は、状況に応じスタッフは席を外したり、子機を居室にお持ちしたりしている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	全スタッフは訪問者を常に笑顔でお迎えして、気軽に訪問していただける環境作りに努めている。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束やその弊害について、全スタッフが正しく理解しており、身体拘束はしていない。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向のある入居者の所在確認を常に行い、外に出ようとされているときは止めずに一緒に出かけたりしている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフは入居者が集まれるリビングで記録などの業務を行い、夜間も時間毎に入居者の様子確認をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活の場であることを重視し、すべてを取り除くことはせず、入居者の状況に応じ柔軟に対応している。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状態を全スタッフが把握し、事故を未然に防ぐ努力をしている。ヒヤリハットや事故報告書を作成し、事故の再発防止にも努めている。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全スタッフが救命講習を受けている。	○	今年より年1回の受講を義務付けている。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作り避難経路・避難場所を確保している。年1回防災訓練を実施している。	○	地域の協力についても、5月の運営推進会議で話し合う予定である。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居前に自由を大切にすることを事業所の方針を理解していただき、それに伴うリスクと対応策を説明している。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎月のバイタルチェックで入居者の平常時の状態を把握し、異常の早期発見に努め、情報を共有している。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体温表・個人記録に現在服用中の薬を明記し、全スタッフが把握している。処方内容の変更も、都度確認している。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事に野菜を多く取り入れる、水分補給をこまめに促す、散歩や体操を行うなど自然排泄に向け工夫している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、入居者の状態に応じて介助を行い、3 ヶ月に1 度歯科衛生士によるチェック・指導も行なっている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を毎日チェック表に記録し、全スタッフが情報を共有している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症への対応マニュアルを作成・掲示し、インフルエンザの予防接種は入居者・スタッフとも毎年行なっている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきん・まな板等を定期的に消毒している。また、常に冷蔵庫内の確認を行い、新鮮な食材を使用している。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇やプランターに四季折々の草花を植え、暖かい雰囲気作りに努めている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が集うリビングは日当たりが良く、他にも一般家庭で使われている調度品等を配置し、家庭的な雰囲気の中で生活が出来るように配慮している。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	敷地の広さや間取りの関係で独立したスペースの確保は難しいが、入居者同士で寛げるよう工夫している。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力により、馴染みの家具や生活用品・趣味の道具などを持ってきていただいております、安心できる空間作りに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室をこまめに訪問し、温度調節や換気を行なっている。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ等要所に手すりを配置し、洗面所やテーブルの高さも入居者の使いやすさを考慮し設定している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の状態・状況に応じて柔軟に対応している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	限られた敷地の中で、草花を植えたり水を撒いたりといった活動ができるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の <u>②利用者の2/3くらいの</u> ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<u>①毎日ある</u> ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が <u>②利用者の2/3くらいが</u> ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<u>①ほぼ全ての利用者が</u> ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が <u>②利用者の2/3くらいが</u> ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が <u>②利用者の2/3くらいが</u> ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者が <u>②利用者の2/3くらいが</u> ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と <u>②家族の2/3くらいと</u> ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<u>①ほぼ毎日のように</u> ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている <u>②少しずつ増えている</u> ③あまり増えていない ④全くいない
100	○職員は、生き生きと働いている	<u>①ほぼ全ての職員が</u> ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が <u>②利用者の2/3くらいが</u> ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が <u>②家族の2/3くらいが</u> ③家族の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設当初より、毎月の行事として外食会・外食・温泉を行なっている。また、年に1度の一泊旅行も今年で3回目を迎えた。

入居者が重度化してもスタッフの工夫と努力により実現されている。

認知症になっても、外に出かけていく楽しみを味わうことの重要性を全スタッフがしっかりと理解しており、今後も可能な限り続けていきたいと思っている。